

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

16年8月28日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3年
------------------	------	---------------	------

参加プログラム:	LLICプログラム	派遣先大学:	香港大学
----------	-----------	--------	------

卒業・修了後の就職(希望)先:

<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港島西部にメインキャンパスを有し、新界にも研究所がある。香港最古の大学であり、大学評価の世界的指標である The Times Higher Education による「世界大学ランキング 2012-2013」では35位であり、アジア圏の大学では第3位である。著名な卒業生には、中華民国を成立させた孫文がいる。

参加した動機

一つは、私は今まで留学経験や海外の長期滞在経験が全くなかったため英語を話すことに抵抗をなくしたいと考えたことです。授業をすべて英語で行う香港大学の学生や、英米の名門大学の学生との交流によって自分の視野を広げたいと考えました。もう一つは、経済成長の著しい中国の企業の中に入ってみたいなど中国を自分の目で見てみたいと考えたことです。参加者の多くは、中国系の大手企業に派遣されるというのも魅力でした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

預金証明の国際小切手を、郵送するという手続きが郵便局でできなかったため、民間銀行で降り出してFedexか郵便局のEMSという速達で届けてもらいました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

60日以上の上陸ビザ(Mビザ)は大使館で発行できないと窓口で言われ、対応できる民間の仲介企業を見つける必要があったこと、ビザの受け取りまでに2,3週間要したので余裕を持って動く必要があったこと。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側から加入するよう指示のあった保険のみでした。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

S2タームは欠席したので、ゼミの先生にはゼミ選考の段階から前もってお伝えしておきました。学部はその期間の授業を履修していないということで手続きは不要でした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
企業内で使う英語は中国企業の社員さん達も非ネイティブなので高いレベルを求められませんが、プログラム参加者との交流の時間がたくさんある分、仲良くなったり自分の主張をしたりするために英語はできるにこしたことはないと感じました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国で現金両替をするのが難しいため、デビットカードがあった方がいいと思いました。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
2ヶ月強のプログラムの最初一週間にあった香港大学のレクチャーは、授業を担当した香港人の先生が日本の銀行で勤務したことのある方で、香港中国日本の文化面からの比較をするといったものでした。個人的体験に基づく偏った部分があったのかもしれませんが楽しんで聞くことができ、その内容をもとに他の参加者達が日本について興味をもったことを質問しに来てくれることがあったのもっとよりよく説明できたらよかったなと思います。
②学習・研究面でのアドバイス
インターン先では、海外事業部に配属されたこともあり社員さんはみんな英語が話せましたが、やはり中国語ができた方が彼らから得られる情報量も多く、フレンドリーに接してもらえる印象がありました。
③語学面での苦勞・アドバイス等
最初は、自分の英語力でのスピーキング力のなさでずっと受け身だったり、特にイギリス人の英語の速さやアクセントについていけなかったりと落ち込んでいましたが、2ヶ月の期間で居心地のよい友達を見つけて自分のペースで馴染んでいくことができました。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
上海の中心部にあるかなり快適なサービスアパートメントで、3LDKの部屋を5人でシェアする割り振りがされていました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
上海は夏は冬に比べ空気も汚れていないので、マスクなどせずに過ごしていました。上海の料理が日本人の口に合いやすいそうであることや、セブンイレブンやすき家があったり、日本から輸入した日用品や食品も多くの場所で売られていることもあり、外国とはいえ過ごしやすかったと思います。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
上海は中国の中でもかなり治安がよく、終電も11時ごろと早いので、夜でも怖いことはありませんでした。田舎に行くほどトイレが汚くなるのでティッシュを携帯するようにしていました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費往復4万程度、2ヶ月半で8万程度を使いました。このお金で南京と黄山など旅行にも出かけることができました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
大学から奨学金14万円と、参加者全員に支給されたFung Scholarshipからの奨学金のおかげで、住居、香港と上海の往復航空券の負担が免除されていました
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
土日はインターンがなかったので、南京や黄山など旅行に出かけました。私はお金が不足していませんでしたが西安や北京に行っている子もいました。部屋で自分の料理を持ち寄ってパーティーをすることもありました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
香港大学の国際課の対応は、急に書類の提出を求めてくる、急な変更があるなどありましたが、問い合わせに対する返答は概ね迅速でした。香港大学の参加者やStudent Ambassadorがガイドしてくれ、自由時間を楽しむことができました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂やスターバックスが安い値段で利用できたのがよかったです。香港大学の施設内のWiFiは早かったので動画も問題なく見ることができましたが、上海に行ってからVPNを契約していました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
個人的に、インターンからというよりも、参加者との出会いによって刺激を受けた影響の方が大きく感じます。もうすぐ就活を始めるという時期に参加したことで、中長期的なキャリアの中に海外で仕事をするということをしてみたいし、実際に不可能ではないのだと気づけたのは良かったと思います。もしこのプログラムに参加していなかった場合には考えていなかっただろうという新しい発見が多くありました。
②参加後の予定
今回東大からの私以外の参加者は休学期間に留学していたり、交換留学に参加した後このプログラムに参加していたりと経験が豊富だったので、彼らからの体験談が刺激になり自分も交換留学を考え始めています。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
このプログラムはインターンよりも中国の文化を、多国籍の学生と一緒に暮らしながら体感することの方から学びが多くなっていました。上海は中国の旅行もしやすいので、旅だけでは物足りない国際体験がしたい人にオススメです。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 31日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	香港大学LLIC	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学はほぼすべての授業を英語で行う国際色あるアジアトップ大学の一つ。ただし広東語を話せるかどうかで時々差別的なことがあるらしい。英語もネイティブというよりは訛りがある。

参加した動機

デンマーク・アメリカと留学してきたため最後はアジアで留学したいと思った。また海外インターンはしたことがなかったので興味があった。(海外で働くということの感覚を知りたかった)

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大を通じて応募。そこでまず第一次選考があり、それが通った後に東大からの推薦を得たうえで直接香港大学に応募。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍の人は香港での学生ビザと中国本土での就労ビザor観光ビザを取得する必要がある。私はおそらく90日間の就労ビザを得た。なお大使館では所得できず、エージェントを通す必要がある。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が指定してきた加入必須の保険に加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし(もともと1年間の休学済み)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語はそれまでデンマーク・アメリカで留学していったため全く問題なし。中国語は二外として学んでいたこと、事前に台湾に1ヶ月行っていたこともあり旅行ができるレベル。
⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国語がしっかり話せたらインターン先でも実践的な仕事もできるし同僚との会話もできる。(私の会社では、英語は仕事レベルはできるが日常会話はあまりできない人が多かった。)
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
最初1週間は香港大学で中国への理解を深める授業を受講。その後は杭州に行き会社見学他した後上海に移動し週5で派遣された会社で9:00-18:30までインターン(他の学生の中には週4の人も)ただだいが緩く、遅く行ってもばれない。当たり前だが正直私の会社にとっては私含めたインターンの扱いは雑用程度なのでいる必要はない。
②学習・研究面でのアドバイス
香港大学での授業はおまけ程度、予習復習必要全く無し。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語ができると仕事の幅が確実に広がる。英語だとどの会社でも会社業務の雑用に終わる。(英語翻訳含む)
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)
期間中は全て香港大学が提供してくれる。立地・広さかなりいい宿舍に泊まれる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカードなど)
気候:暑い蒸し暑くはない 交通機関:ほぼ定刻通りに来るし充実しているが日本の常識が通じないことは多々 食事代:安くも高くもできる お金:クレカは基本使えないのでほぼ現金。Wechatでも払えるらしいが恐らく電話番号なり銀行口座なりが必要
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は基本的に日本並にいい。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
10万程度。(生活費:3万程度 他は飛行機代)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
14万円。東京大学を通じて参加すると皆受給できる。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
毎週末一人で上海の周りの観光地的なところに高速鉄道を用いて日帰りをしていた。あとは上海で働かされている日本人の方々にコンタクトをとり1週間に1~2人のペースで計10名程度に会っていた。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
特に無し。引率の先生も上海滞在の最中はいない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
1週間のみの大生活のため特に使った施設はなし。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
正直「海外インターン」としてはかなり期待外れ。インターンは基本的には雑務しかなく平均して1日に1~2時間作業をするかしないかくらい。ゆえに自由な時間が多かったため本を読んだり調べ物をしたりという毎日だった。本格的な「海外インターン」としては期待はずれ。(もちろん自分でゼロからイチを仕事の中で生み出すという姿勢で自分から取り組むこともできたが、私は派遣された会社の業務には読書や自分の勉強以上の興味を持ってなかったためやらなかった。)ただ、個人的にはインターンが退屈だったからこそ感じられたこともあるし、いつもはあまり持てない自由時間を持てたため、本を読んだりいつもは会わないような人にあたり一人旅をしたり新しい挑戦をしたりでき、新しい自分を発見できたため学びがなかったわけではないし後悔はしていない。
②参加後の予定
東大に復学、4年生冬学期の授業を履修予定。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
ほぼ出費がなく、英語/中国語を上達させたい・留学を体験したい・海外の大企業の雰囲気を知りたい・中国を旅行したい・名門海外大の友達を作りたい・自由な時間を持ちたいといったモチベーションならば参加をおすすめするが、バリバリ業務をやるような海外インターンを期待しているならおすすめしない。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年 9月 1日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部4
参加プログラム：	香港大学LLIC	派遣先大学：	香港大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士）
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界： ）		6. 起業
	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

香港大学は香港、中国ならびにアジアにおいてもトップ大学の一つとして数えられる大学である。学生の大部分は現地の学生と中国本土からの学生であるが、授業のほとんどは英語で行われているため海外の学生にとっても留学がしやすいようになっている。

参加した動機

私がLLICプログラムに参加した理由はいくつかあります。まず、一つ目はその時期にあります。私が交換留学から帰国したのは5月初旬で、クォーターの授業が少ない教養学部の夏学期に参加して単位を十分に取りきるのには難しい状況でした。そのため、5月から9月末までという長い時間を有意義に使うという目的からプログラムを探し始めました。二つ目は、このプログラム自体の特性です。このプログラムの魅力は①費用がほとんどかからない②インターン経験を積むことができる③ivy league, Oxford, Cambridgeといった世界トップ大学の学生と深い人間関係を持つことができる、といったことでした。これに合わせて、もともとアジア地域に興味があり中国の事情を肌で感じたいと考えていたので、このプログラムは私にとって非常に理想的なものでした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

主に三つのステップがありました。それは①東大内部での書類選考②HKUでの書類選考（エッセイが主）③HKU職員とのskype面接です。他大学からの参加となればivy leagueのレベルで数十倍の倍率となるため、東大からの参加は比較的難易度の低いものとなっていると思われます。また、その後にはビザの申請に成功することが参加の必要条件となります。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

私は、香港滞在ビザと本土の観光ビザをシンガポールで申請して入手しました。まず、香港滞在ビザはHKUに申請書類と手数料分をクレジットカードから引き落とす委任状を郵送するだけの簡単なものでした。一方で、シンガポールからのビザの申請は難しく、就労ビザやビジネスビザはそれぞれ上海労働局の許可がないこと、初めての長期滞在であるため1ヶ月が上限であることから申し込むことができませんでした。最終的には観光ビザ二ヶ月（Single Entry）を申請しましたが、この際も旅程（適当なものを作成）を提出する必要がありました。実際に中国に行ってからビザに関して問題は起こりませんでした。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特になし

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
<p>東大を通して加入することになるOSSMAと海外旅行保険に加入。特にOSSMAに関しては上海という地理的特性を考えれば全く必要性はなかった。交換留学にいった学生でもOSSMAの必要性を感じている学生はほとんどおらず、海外旅行保険ならまだしもOSSMAをプログラムに参加する条件として課していることに不満を持つ学生は数多くいる。万一の場合の責任を誰がとるかということを事前に明確に示すことで強制加入という理不尽な事態は回避することができるはずである。</p>
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
<p>コース主任の先生に報告し、教務課に留学届けを提出した。</p>
⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）
<p>英語に関しては授業、インターン先、日常生活と問題ない状況でスタートした。しかし、中国語は日常生活レベルに到達していたとはいえない状況だったため、日常生活で不便を感じる点は多々あった。インターン先においては、日常会話程度ができると従業員と活発なコミュニケーションがとれるため非常に役立つ。また、高度な中国語能力が身につけていればインターンでできる仕事の幅も大きく広がる。</p>
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
<p>中国語で日常会話レベルまでできるようになっていると非常に役立つ。特に、中国国内の旅先では必須。英語能力も必須。英語話者コミュニティでも活発に交流することができるレベルでないとプログラムから十分に成果をえることはできない。 そのほかの準備としてVPNを事前に契約しておくことを強く勧める。Express VPNが最も安定していた。</p>
学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
<p>1週間の香港大での授業、8週間の上海でのインターン、1週間弱香港に滞在した後にクロージングセレモニーという構成。上海にいる間の土日はほとんど旅行に費やした。木曜、金曜、月曜などで休みをとることでやや離れた都市へ行くことも可能。プログラムに迷惑をかけない範囲であれば、会社と交渉して時間を自由に使うことができる。</p>
②学習・研究面でのアドバイス
<p>インターン面でのアドバイスとして、社内言語が中国語であることが多く、社内コミュニティに打ち解けることが難しいが、積極的に従業員とコミュニケーションをとることを心がけたほうがいい。</p>
③語学面での苦勞・アドバイス等
<p>普段の生活で中国語が使えないと苦勞することが多い。上海では英語はほぼ通じないと考えたほうがいい。英語ではイギリスからの参加者のアクセントが強く、聞き取るのが最後まで困難だったが、概ね会話を楽しむことが出来た。ただ、英米で共有している文化が幅広いため、話についていけないということはあった（映画、音楽、テレビなど）。</p>

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

香港では寮とホテル、上海では高級賃貸マンションが割り当てられ非常に快適な生活を送ることができた。ただ、部屋によってはキングサイズベッドを二人でシェアするなどといったことも起こるため、抵抗がある場合は事前に伝えておくとよい。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

上海、香港ともに普通の生活で特別困るということはない。物価も日本に比べて同じかそれよりも安いといったところだが、東南アジアのように非常に安いというわけではない。お金は中国国内での両替は面倒なため、デビットカードを作成してATMから引き出すという方法が最も便利。私たちがいた時は特に為替の変動が大きかったため、円が高くなった時を狙って両替するよう心がけるとよい。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

通常の都市での生活と同程度気をつけていれば問題はない。ただ、特に香港では建物内外での気温差が大きいので羽織るものを常に持っている体温管理に役立つ。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

持ち出し6万+奨学金14万=20万円。週末に旅行に積極的に出掛け、夜も友達と頻繁に外食、アクティビティを繰り返した。一般的にアメリカやイギリスからの参加者は出費に糸目をつけないので、しっかり付き合おうとすると出費はかさむ。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

14万円。東大を通してFung Scholarship Foundationから頂いた。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

毎週末旅行に出かけていた。行った都市は杭州、苏州、南京、西安、黄山、武漢で主に高速鉄道を利用した。平日はマンションに付属のプールやジム、外食、ダーツ、ビリヤード、トランプなど簡単に言えば毎日遊んでいた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

特になし。ほぼ放任で自己責任の部分が多い。新しい環境に不安がない人のほうが参加には好ましい。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

上海のマンションにはプール、ジム、卓球台、テニスコートがついており、部屋にも複数のシャワーとトイレがついていて、東京では一月30万ほどしてしまうほどの設備を持つ場所であった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

インターンを通して学ぶことができたことは、正直なところ限られていた。というのも、上司があまりインターン生に対して時間を割く事がなく、毎日毎日エクセルファイルの分析とリサーチばかりをこなす日々だった。ただ、中国の企業における人間関係や仕事の行われ方、そのクォリティ、職場の雰囲気などを知る事ができたのはよかった。

そのほかの部分は非常に充実していて全体としては満足のいくものだった。特に、単なる冗談から政治経済社会倫理と幅広い事柄についてしっかりとした考えを持っている人が多く、日々の会話から学ぶ事は多かった。また、様々な都市を旅行することでそれぞれの都市の特徴を肌で知ることができた。

結果として最大の成果は世界中に幅広く心の通じ合った友人関係を構築することができたことだった。

②参加後の予定

東大に復学して4年生冬学期の授業を履修予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2ヶ月は長いようであっという間に過ぎてしまいます。何かこれだけはしようということを2-3個心の中に事前にもっていて、その達成を意識するように生活をするといいと思います。個人的には、①信頼できる人間関係の構築②中国企業の特性分析③中国のそれぞれの地域の特性を知る、の三つを目標としていたのである程度成功裏にプログラムを終える事が出来たと思っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 30日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	香港大学LLIC	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要
香港大学は世界各国から留学生を受け入れほぼすべての授業を英語で行う、国際色あふれるアジアトップクラスの大学である。
参加した動機
2016年5月末まで全学交換留学で留学しており、冬学期が始まるまでの長い夏休みをお金をかけずに有意義に過ごしたかったため。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
東大を通じて申し込みをし、東大からの推薦を確保したうえで英文のエッセイを香港大学に提出する。エッセイが通過するとスカイプで面接をし、それに合格すると正式決定となる。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
日本国籍の人は香港での学生ビザと中国本土での就労ビザor観光ビザを取得する必要がある。私は留学中であつたため海外で手続きを行わなければならない、私の住んでいた地域からは最長1か月の観光ビザ(2回入国可)しか取れなかったためプログラム途中で1度帰国する羽目になった。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
交換留学中に加入必須だった保険を延長した。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
直属の先生に一応連絡した。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
2学期間留学した後だったのと中国語を継続的に勉強していたので英語・中国語共に日常生活レベルでは問題なかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

インターン先での服装は会社により異なるが、開会式と閉会式では正装なので最低1セットはスーツが必要。中国語ができないと日常のやり取りを他の参加者に頼ることになり不便なので、ある程度勉強しておいた方が楽しめる。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

初めの5日間香港大学で授業、その後杭州でフィールドワーク(という名の観光)、上海に移動して各々の企業に派遣されて2か月間のインターンシップ。インターンシップ終了後香港に帰って閉会式という流れ。個人的な事情でプログラム開始後数日して参加する人、フィールドワークをさぼる人、プログラムをかなり長い間離れる人(自分含め)等多数いてかなり自由。

②学習・研究面でのアドバイス

授業はインターンシップのおまけのような扱い。真面目に予復習などをする必要はない。

③語学面での苦勞・アドバイス等

イギリス、アメリカからの参加者が多く、英語ネイティブの中に混じってやっていくのは大変だった。一部の香港人は香港人だけで固まり広東語で会話するためそこに加わるのも難しい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿舎、ホテル等はすべて香港大学が準備してくれる。もし早めに香港入りしたりプログラム終了後も香港に滞在するならば自分でホテルを確保する必要がある。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

香港、上海ともに大変暑い。上海では40度超えの日もあった。両都市共に交通機関は非常に発達しており、安く外食できる場所も多いのでとても便利。お金は新生銀行のカードで現地通貨を引き出していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は最低限のことに気を付けていれば危険な目に合うことはほぼない。体が弱い人は汚いレストランや屋台での食事は避けた方がいいかもしれない。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

20万円程度。私は毎週末旅行に行っていたのと日本への一時帰国もしたので費用がかさんだが、節約すればほぼ食費と香港への往復航空費のみで済む。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

14万円。東京大学を通じて参加すると皆受給できる。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

毎週末、時には会社を休んで中国各地を旅行していた。日本からはとても行きにくい観光地にも安く簡単に行け、参加者の中に中国語ができる人が多いので語学に不安があっても安心。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特になし。引率の人も上海には1週間程しかいないため何かあっても自分で対応しなければならない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学での生活は長くないが一通り設備はある。インターネット環境も良い。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

無料で参加させてもらい奨学金まで頂いているので贅沢は言えないが、派遣される会社によってかなり不公平があるというのが正直な感想。かなり忙しく働いている参加者がいる一方、私の会社ではほとんど仕事がなくデスクで一日中読書をしていたという日も少なくなく、そのため会社を休んで旅行をすることも多かった。職場に英語が話せない人も多くいたため中国語が鍛えられる環境ではあった。長期留学後の長すぎる夏休みの暇つぶしという意味では悪いプログラムではないと思う。

②参加後の予定

東大に復学して4年生冬学期の授業を履修予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ほとんど出費がなく、海外の大企業の職場の雰囲気を知ることができる、参加者は皆世界トップクラスの大学出身で刺激的である、中国旅行の機会が多いなど魅力あるプログラムだと思います。時期的にも特に留学帰りで暇を持って余している人におすすめです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。